

第 133 回 東葛しぜん観察会

長田谷津の冬の自然

渋谷 孝（市川市）

日 時：2017 年 2 月 5 日（日）10 時～12 時 30 分 天候：曇り

場 所：大町公園自然観察園（市川市）

参加者：大人 11 名、指導員 20 名

担当指導員：米澤理雄、渋谷 孝、長谷川依子

北総線大町駅から徒歩 5 分の場所にある大町公園自然観察園は、台地に挟まれた低地と斜面林からなる「谷津」で、別名長田谷津。かつて市内に田んぼが広がっていた頃、当たり前のようにいた生きものたちに今でも出会える貴重な場所になっている。今回は寒い冬を生きものがどのように過ごしているか、春へ向けてどんな準備をしているかを観察した。

北の入口から谷へ下りてすぐ、斜面のすそから水が湧いている。触ってもらおうと、「あったかい！」との声。温度計で測ってみると 14℃。気温は 6℃しかないのに、なぜ？この水は、周囲のナシ園に降った雨が、長い時間をかけてしみ出しているもの。一年中ほぼ一定の温度で、涸れることはない。この湧き水が長田谷津の生物をささえている。

トクサが生えているところで、ホソミオツネトンボを探す。成虫で越冬する珍しいトンボだ。枯れ枝そっくりの色と姿で、「ここ」と指してもなかなか分からない。スコープで覗いて、目、あし、はねを見つけ、ようやくトンボだと納得。「冬の間何を食べているの？」「ずっと動かないの？」「なぜ成虫で冬を越すの？」と次々と疑問が。

同じく成虫越冬するチョウのムラサキツバメを探したが、この日は見つからず、写真で説明。枯れ葉そっくりの姿に、「見てみたかった」と残念がる声。

園路を歩きながら、植物の冬芽を観察。白い毛で被われたコブシ、ゴツゴツしたオニグルミ、裸に見えるムラサキシキブ。ルーペで見るとどうでしょう？ 春になると葉になる？ それとも花になる？ 切ってみるとわかるかも。

シラカシとアカガシを比べると、アカガシにだけ、どんぐりの赤ちゃんが付いている。木の下にはどちらもどんぐりが落ちているのに、なぜ？

冬は鳥の種類も多い。地面でエサを探すアトリ。湿地の草に隠れて「チッ」と鳴くアオジ。ヤブから聞こえる「ジャッ」という声はウグイス。「チュルチュル」という軽快な声の主はメジロ。黒いネクタイのシジュウカラ。水中を見つめるカワセミ。エサはそれぞれ何を食べているのかな？ エサの採り方も違うみたい。

水たまりにニホンアカガエルの卵塊を 2 つ発見。「こんな早くから産むんですね」。わざわざ早く産むのは、なにかメリットがあるから？

観察会終了後、小雨が降り出す。今夜あたりアカガエルがまた卵を産むかも。ホソミオツネトンボはこれからどうなる？ コブシはいつ咲くかな？ ヘイケボタル、オニヤンマ、ミドリシジミも見たいな。ほーら、また来たくなりますね。

